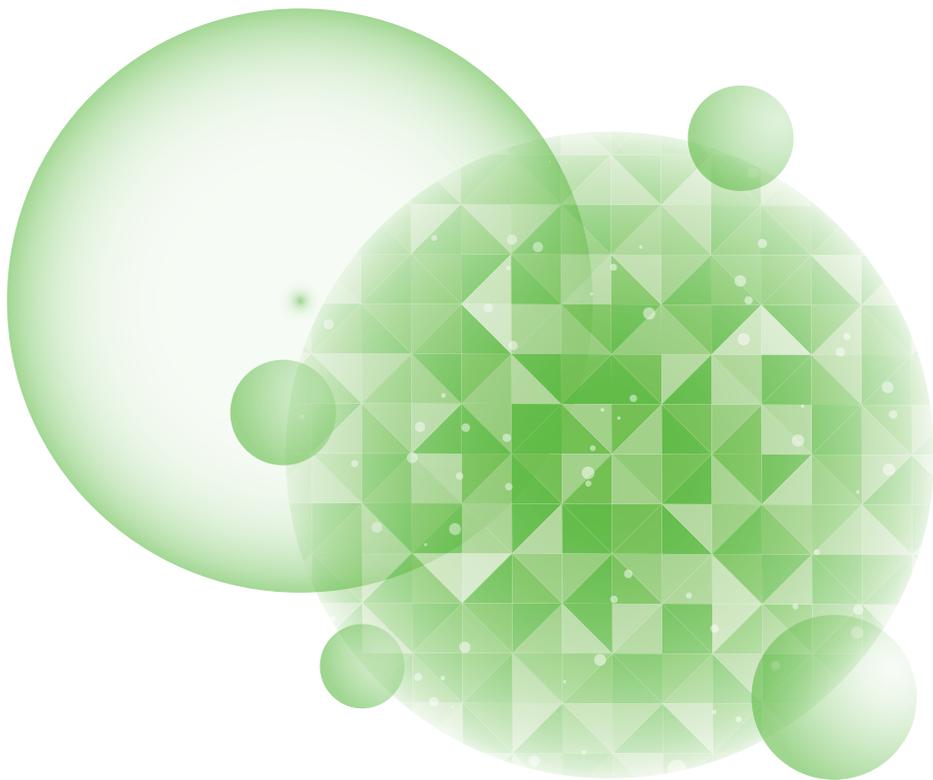


奈良県臨床細胞学会雑誌

The Journal of Nara Society of Clinical Cytology

第 17 号



奈良県臨床細胞学会

2017年1月発行

目次

症例報告「甲状腺髄様癌の3例」	伊丹 弘恵・他	1
原著論文「BD SurePath™法による気管支擦過細胞診における抗酸菌検出の有用性 ～3症例からの考察～」	田中 京子・他	7
新任役員紹介		
理事就任のご挨拶	藤 井 智 美	12
理事就任にあたって	松 田 江身子	12
理事就任にあたって	吉 田 和 弘	13
新入会員紹介		
細胞検査士として新出発	乾 朝 子	14
奈良県臨床細胞学会新入会員として	龍 見 重 信	14
第30回奈良県臨床細胞学会学術集会		15
教育講演		
「EUS-FNAの標本作製から診断まで」	竹 中 明 美	19
特別講演		
「腭腫瘍性病変の画像診断とEUS-FNAの実際」	福 武 伸 康	22
第10回奈良県臨床細胞学会ワークショップ		23
「子宮頸部細胞診と臨床」	植田 政嗣・他	23
「検鏡実習」	若狭 朋子・他	36
奈良県臨床細胞学会会則		45
奈良県臨床細胞学会雑誌投稿規定		46
編集後記	豊 田 進 司	48

新任役員紹介

理事就任のご挨拶

奈良県立医科大学 病理病態学講座 藤井 智美

このたび、奈良県臨床細胞学会の理事に就任させていただき、関係の皆様深く感謝申し上げます。

平成23年より奈良県立医科大学病理病態学講座にて研究スタッフならびに病理診断医として勤務しております。平成26年に臨床検査専門医、平成27年に病理専門医と細胞診専門医を取得し、基礎研究と並行しながら日常業務として病理診断を行っています。

細胞診断に関しましてはまだまだ取り組みが浅く、勉強不足ではありますが、細胞形態を観察する目を養うとともに、病理診断と同様に細胞診断に分子診断を取り入れることも目標にしながら、基礎研究の立場から細胞診の世界を広げるような展開ができればと思っています。

今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

理事就任にあたって

天理よろづ相談所病院 臨床検査部 松田 江身子

このたび、奈良県臨床細胞学会の理事に就任させて頂きました、天理よろづ相談所病院の松田江身子と申します。

平成7年に天理よろづ相談所病院に入所し、細胞診室に配属になってから20数年、これまで諸先輩方から多くのご指導をいただきながら細胞診という業務に携わってきました。今年の夏より当検査室において年長者となり、今では若手の力を借りながら、日々忙しいルーチン業務を行っており、いろんな意味で、まだまだこれから勉強と、経験を積んでいくことが必要と思っています。これから、微力ながら奈良県臨床細胞学会に貢献できたらと思っていますので、どうぞご指導のほどよろしくお願いいたします。

理事就任にあたって

奈良市総合医療検査センター 吉田和弘

奈良市総合医療検査センターの吉田和弘と申します。平成2年に奈良市総合医療検査センターの前身である奈良市医師会臨床検査センターに入社し、病理細胞診係に配属されることになり、細胞検査士の資格を取得いたしました。細胞検査士として検査センターで細胞診業務に従事してまいりましたが、病院などの臨床の現場の経験がほとんどありません。私自身、経験不足で細胞検査士の先輩方と比べて、まだまだ実力不足の未熟者ですが、日々精進してまいりたいと考えております。今後とも、みなさまのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

新入会員紹介

細胞検査士として新出発

南奈良総合医療センター 臨床検査部 乾 朝 子

南奈良総合医療センター臨床検査部の乾朝子と申します。

技師学校を卒業してからは大阪市立大学付属病院などで働いてきましたが、学生時代から憧れていた細胞検査士資格の取得を機に今年4月、地元である奈良の病院に転職しました。

取得したのは2年前で幾度かの挑戦で何とか合格できました。何度も諦めそうになりましたが、大阪や兵庫の勉強会に参加したり他施設にも標本を見に行くなど、たくさんの方々のご指導のお陰で取得する事が出来ました。

スクリーナーとしては、南奈良総合医療センターが開院した今年4月にスタートしたばかりで、試験とは違う実際の業務に頭を悩ます日々ですが、周りの方々のご指導のお陰で楽しく業務に取り組んでいます。

今後は学会発表にも積極的に取り組み、奈良の地で細胞検査士として頑張りますので皆様ご指導のほど、よろしくお願い致します。

奈良県臨床細胞学会新入会員として

奈良県立医科大学附属病院 病院病理部 龍 見 重 信

この度奈良県臨床細胞学会に入会させていただきました、奈良県立医科大学附属病院の龍見重信と申します。細胞診との出会いは、大学院の修士課程在学時に細胞診の勉強をさせていただけるようになったことがきっかけでした。一度目の細胞検査士試験では二次試験で落ちてしまいました。その後、当院に入職し、約一年間みっちり勉強させていただき、二次試験からとなる二度目の試験で合格させていただきました。現在、私は入職三年目、細胞検査士二年目を終えようとしています。細胞検査士は資格を取ってからがスタートであると耳にはしていましたが、まさしくその通りで、勉強の日々を送っております。私の信条は、大学院時代の恩師から送られた言葉「患者のために、勉強、研究」です。これを胸に、奈良県臨床細胞学会員として、様々な活動や行事に携わっていかれたらと思っております。駆け出しの身であり、至らぬ点もあると思いますが、今後ともご指導宜しくお願い致します。

奈良県臨床細胞学会会則

(名称と事務局)

第1条 本会は、奈良県臨床細胞学会と称し、奈良県医師会に所属する。

第2条 本会の事務局は奈良県医師会館内に置く。

(目的と事業)

第3条 本会は細胞診を中心に臨床細胞学の進歩向上および普及を図ることを目的とする。

第4条 本会はその目的達成のため学術集会をはじめ、その他必要な諸事業を行う。

(会 員)

第5条 奈良県に在住または勤務先を有する日本臨床細胞学会会員であり、且つ奈良県医師会会員ならびに県医師会会員の管理する医療機関に勤務する医師および検査技師をもって本会の会員とする。

第6条 会員は、理事会において定める会費を納入しなければならない。

第7条 会員以外で本会の主催する学術集会、その他の諸事業に出席する者を当日会員とすることがある。

(会員の資格の喪失)

第8条 会員が次の各号の一つに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届を提出したとき。
- (2) 本人が死亡、もしくは失踪宣告を受けたとき。
- (3) 継続して2年以上会費を滞納し催促に応じないとき。

(役 員)

第9条 本会は下記の役員を置く。

会 長 1名

理 事 若干名

また、本会に顧問を置くことができる。

第10条 会長は会員の中から選出し、理事は会長より委嘱する。

役員任期は3年とし再任はさまたげない。

第11条 会長は随時理事会を招集し本会に関する重要事項を協議し実行する。

(会議の開催)

第12条 本会は毎年1回の総会並びに学術集会を開催する。

(会 計)

第13条 本会の経費は会費、寄付金をもって充当する。

第14条 会費の額および納入方法は理事会に諮って会長が定める。

第15条 本会の会計は理事の内1名が管理する。会計理事は会員に前年度の会計監査を受け、報告しなければならない。

第16条 本会の会計は毎年4月1日にはじまり毎年3月31日に終わる。

(会則の変更)

第17条 本会の会則の変更は理事会の協議を経て総会において決定する。

(附 則)

本会則は昭和60年1月26日から施行する。

平成9年10月25日 一部改正

平成23年10月13日 一部改正

平成27年12月5日 一部改正

奈良県臨床細胞学会雑誌投稿規定

奈良県臨床細胞学会会員に限ります。ただし特別講演などや依頼原稿は別扱いとなります。

- 2) 掲載論文：本誌に掲載するものは、奈良県臨床細胞学会学術集会の一般演題や、特別講演、スライドカンファレンス、シンポジウム等の記録、一般の原著論文や症例報告、短報、総説、図説、解説等の臨床細胞学の進歩に寄与しうるもので、投稿に際しては1964年のヘルシンキ宣言（ヒトにおける生命医学（biomedical）研究に携わる医師のための勧告）を遵守して下さい。その他、各種集会の議事録、県内セミナーや勉強会の記録、検査室紹介などや連絡事項等の会員相互の協力や交流に役立つ記事も含まれます。
- 3) 提出原稿の部数：原稿は、文章、表、図ともに1セット、電子媒体の場合もプリントアウトして媒体とともに1セット添えて提出して下さい。電子媒体（CD-R、USBなど）はWord（文書データ）、PowerPoint（写真、表など）、Excel（表データ）、JPEG、TIFF（写真保存形式）を使用し、使用ソフト名を記入して下さい。なお、抄録などテキストファイルのみの原稿の場合は、電子メールで事務局に送信して下さい。印刷物のみによる投稿は別途、事務局にお問い合わせ下さい。
- 4) 論文の採否：提出された原著、症例報告、短報、総説等の論文は、査読を経た上、編集委員会で採否を決定します。
- 5) 校正：著者校正は、初校で行いますが、校正時の大幅な変更や加筆は避けてください。校正した原稿は指定期限内に返却して下さい。
- 6) 原稿の返却：採用された原稿一式は、雑誌印刷の完了後に返却します。
- 7) 掲載料：刷り上がり4頁までは無料とし、それ以上は著者の実費負担とします。ただし依頼原稿は例外とします。
- 8) 別刷料：本誌20部までを無料とし、特別に別冊を希望する場合は実費を請求します。
- 9) 原稿の送付先：奈良県臨床細胞学会事務局

（橿原市内膳町5-5-8、奈良県医師会内、saibou@nara.med.or.jp）

10) 原稿作成の手引き

(1) 原稿の書式

- a) 現代かなづかいの和文とし、ワープロでA4縦長の用紙に横書き1行40字、1頁20行で800字詰め、手書きの場合は市販の横書き400字詰め原稿用紙を用いて下さい。
- b) 度量衡単位はcm、mm、cm³、 μ 、m ℓ 、lg、mgなどCGS単位を用いて下さい。
- c) 外国人名および適当な日本語のない疾患名、器具名、薬品名や術語などは原字をそのまま用い、タイプライター字を用いるか1マス2字ずつ活字体で記入して下さい。大文字で始めるものは、人名、固有名詞、Penicilinなどの商品名、ドイツ語名詞、文の最初にきた欧語に限って下さい。
- d) 略語を用いる場合は、最初に完全な用語を記し、その後に（以下、○○）と略語を記入して下さい。

(2) 原稿の形式

- a) 原稿の構成は1. 内容抄録、Keywords 5語以内（原則として第1語は対象、第2語は方法、第3語以下は内容を暗示する単語とする）、2. 本文（緒言、材料と方法、結果、考察）（症例報告の場合の本文は、緒言、症例、所見、考案とする）、3. 謝辞、4. 文献、5. 図表の説明の順に記述し、原稿用紙下欄には通しの頁数を入れて下さい。
- b) 表紙には和文題名、著者名（漢字およびローマ字）（MD、CT、MTの別）、所属、郵送先住所、電話番号、別刷り希望数を記入して下さい。表紙には頁数を入れなくて下さい。
- c) 内容抄録は500字以内にまとめて、背景、症例、結論と小見出しを付けて下さい。小見出しは論文の内容に応じて適宜設定して

下さい。

d) 原稿の枚数：1枚800字詰めとして、症例報告（一般講演・スライドカンファレンスを含む）は4枚程度（刷り上がり2～3頁）、一般原著、特別講演寄稿や総説は10枚程度（同5～6頁）、ワークショップ原稿は2枚程度（同2頁）、を目処として下さい。

(3) 図・表

a) 図・表はそれぞれ番号をつけ、簡単な和文または英文の説明を付記してまとめて添付して下さい。写真は図として下さい。また、本文中の挿入希望箇所を原稿の欄外に赤字で指定して下さい。

b) 写真説明文には染色法と倍率を入れて下さい。電顕写真ではスケールを写真に入れるか写真説明文に倍率を記載して下さい。

(4) 文献

a) 主要文献のみを挙げることにし原著、特集は20編以内、症例報告は10編以内として下さい。総説は編数の制限を定めません。

b) 引用した順に番号をつけて列記し、その番号を本文中の該当箇所の右肩に（あるいは右側に括弧で）に記入して下さい。

c) 文献表記はバンクーバー・スタイルに、誌名略記は日本医学図書館協会編：日本医学雑誌略名表およびIndex medicusに準じます。

d) (雑誌の場合) 著者名(和文はフルネームで、欧文名は姓のみをフルスペル、その他はイニシャルのみで3名まで表記し、3名をこえる場合はその後を“他”, “et al.”と略記する)。表題(フルタイトルを記載)。雑誌名発行年(西暦); 巻: 頁～頁。(例) 近藤裕美子, 高野将人, 森田剛平, 他: 肉腫様肝内胆管癌と肉腫様肝細胞癌の2例. 奈良医学雑誌59: 175-181, 2008.

(例) Regauer S, Reich O: CK17 and p16 expression patterns distinguish (atypical) immature squamous

metaplasia from high grade cervical intraepithelial neoplasia (CINIII).

Histopathology 50:629-635, 2007.

e) (単行本の場合) 著者名. 標題. 発行地: 発行所, 発行年(西暦). なお、引用が単行本の一部である場合は標題の次に著者名, 単行本の標題を記し、発行年の次に: 頁～頁. を記載する。

(例) 高濱素秀. 平滑筋組織の腫瘍. 飯島宗一, 他編. 現代病理学大系 第20巻 軟部腫瘍. 東京: 中山書店, 1992: 175-187.

(例) Shimosato Y, Kodama T, Kameya T, Morphogenesis of peripheral type adenocarcinoma of the lung. In: Shimosato Y, Melamed MR, Nettekheim P eds. Morphogenesis of lung cancer, Vol II, Boca Rayton: CRCpress, pp65-89, 1982.

11) 規定の改正: 本規定は編集委員会の議を経て改正することがある。

(附 則)

平成22年10月21日

平成27年6月25日 一部改正

編 集 後 記

生命力に満ちた寒椿が活力を与えてくれる厳冬の候。皆さまにはいよいよご活躍のこととお喜び申し上げます。

平成28年をふり返るといろいろな出来事がありました。国外においては米国や韓国の情勢が騒がしかったように思います。国内においてはリオ五輪における日本人選手の大活躍に国民が湧きました。それから、大隅良典氏がノーベル生理学・医学賞を受賞したという喜ばしいニュースも入ってきました。また、奈良県臨床細胞学会に関連することとして、9月に大阪で開催された第42回日本臨床細胞学会近畿連合会総会で中村 忍先生と覚道健一先生が名誉会員に推戴されました。このことは当会にとって大変名誉なことで、喜ばしいことでございます。両先生に置かれましては、ますますのご健勝を祈念いたしますとともに、これまで以上に当会へのご指導を賜ればと存じます。

さて、「奈良県臨床細胞学会雑誌」においては昨年より査読制を導入しました。本号でも昨年に引き続き、投稿論文が査読を経て掲載されました。論文著者におかれましては、忙しい日常業務の中を立派に執筆していただいたと思います。また査読委員に置かれましては、編集委員会の依頼を快くお受けいただいたことと円滑に作業が進んだことに感謝しております。今後ともご支援を重ねてお願い申し上げます。また、編集委員会の不足等がございましたら遠慮なく、御意見をいただければと存じます。それから会員の皆様におかれましては次年も奮って論文を提出していただくと編集委員として幸甚であります。

最後になりましたが、平成29年が会員の皆様にとって良き年になることを念じ、編集の後のご挨拶とさせていただきます。

平成29年1月

豊田進司 記

奈良県臨床細胞学会

第 17 号

発 行 平成29年1月

編集委員 豊田 進司

安達 博成

鴻池 資啓

浦 雅彦

発行人 小西 登

発行所 奈良県臨床細胞学会
(奈良県医師会館内)

印刷所 株式会社 春日
